

## 縁の下

小嶋祥三

わたしは縁の下志向が強いような気がする。小学校のクラスで野球チームができたが、わたしが希望したのは捕手だった。多くの人が希望するような華やかなポジションではない。むしろ敬遠されるポジションだろう。しかし、わたしは捕手に惹かれたのだ。

その傾向は自分のいろいろなところに現われるように思う。1999.4-2003.3の間、霊長類研究所の所長をしている時、実験用サル類の繁殖センターを作ることを目指していた。当時、研究所は50年経つと劣化するという説がささやかれていた。それを特に意識したわけではないが、実験用サルの供給事業を行うことで、研究所の価値を高めておこうという意図は持っていた。また、最も進んでいると自負していた、研究所の実験用サル類の飼育と使用に関するガイドラインを、全国に広げたいという気持ちもあった。わたしはこの件に関して、一日に一つ何かをすることを基本方針とした。同僚と議論したり、大学、学界、役所などいろいろな所に話を聞きに行ったり、要望したりした。結局、神経科学の研究者と組むことになり、この計画をこれまでになく高みへと押し上げたと思い、計画実現の軌道に乗ったと考えた。さて、この後が問題である。わたしはこの段階で霊長類研究所を辞め、慶應義塾大学へ移った。計画は根づき、幹も育った。実る果実はわたしの後を継ぐ人が収穫すればいいと思っていた（実際に2007年に施設は完成した）。計画を途中で放り出したという非難もあったが、意に介さなかった。縁の下志向である。

今年2016年の7月24-29日に国際心理学会議が横浜で行われる。これは日本心理学会が中心になって招致し、開催する国際学会である。前回の日本開催は1972年だったと記憶している。わたしが日本心理学会の常務理事で、国際委員会の委員長の時に招致の発議をした。昔の資料を見返すと、2008年10月の常務理事会で発議は承認されたようである。そして招致委員会を立ち上げ、繁樹数男先生委員長を中心に招致活動を展開した。2010年7月にメルボルンで開催された国際心理科学学会議で2016年の大会は日本で開催することが決まった。当時、東京都がオリンピックを招致しようとしていたので、それとぶつからないか心配したことを覚えている。で、この後であるが、わたしはこの段階で国際学会から身を引いた。あとは英語が得意な人たちがやればいいと思っていた。縁の下志向である。このほかに、わたしが委員長だった国際委員会は、中国、韓国の心理学会との交流、日本心理学会国際賞の創設、英文論文執筆の奨励など、縁の下の活動を行った。

このホームページも、考えてみれば、縁の下だ。このような駄文も書いているが、学んだことを一般に公開している。利用したい人はだれでも自由に利用できる。『脳と心：認知神経科学入門』はちょっとクセがあるが、内容は新しく、それなりに高度である（そのつもりである）。デキは悪いが、『予測する脳』は脳に関する新しい、包括的な理論、標準理論？を紹介したつもりだ。最近はお節介にも、実験のアイデアまで提案している。認知神経科学の発展に少しでも役立てば幸いである。